

## 海面水温・海流 1 か月予報のウェブサイトの例

## 海面水温・海流予報

平成18年10月10日  
気象庁 地球環境・海洋部 発表[予報文](#) | [水温・海流分布図](#) | [海面水温時系列図](#)

## 海面水温・海流1か月予報

10月11日から11月10日までの北西太平洋の海水温と海流の見通しは以下の通り

## 1. 海面水温

- 日本の南では、10月中旬に大きく低下し、平年より1℃以上低い海域が広がるでしょう。その後は、平年より1℃低い状態が続くでしょう。
- 日本海北部及びオホーツク海南部での平年より高い状態は、10月中旬に平年並になり、その後は、平年並の状態が続くでしょう。
- 東シナ海北部、黄海では平年と比べ次第に高くなるでしょう。
- 日本のはるか東方の北緯35度、東経160度を中心とする海域で、10月下旬以降、平年より1℃以上低い海域が広がるでしょう。
- 南シナ海、フィリピン南東海域の平年より1℃以上低い海域は、10月下旬までに解消するでしょう。

## 2. 海流

- 黒潮は、10月下旬以降、九州東岸で離岸するでしょう。四国から潮岬に接岸して流れ、東海沖を東に流れ、10月中旬は八丈島の南、その後は八丈島と三宅島の間を流れるでしょう。房総半島には次第に接岸してくるでしょう。
- 親潮の南限位置は、10月中旬には、北緯39度、東経144度がありますが、11月上旬には北緯41度東経146度付近に後退する見込みです。親潮面積は期間を通して縮小し、10月下旬以降平年を下回るでしょう。
- 対馬暖流は、期間を通して、鳥取沖で沖合を流れた後、若狭湾から能登半島に接近して流れます。能登半島以北では、離岸して流れるでしょう。ただし全般的に接岸傾向にあり、対馬暖流域の面積は、平年より少ない状態が続くでしょう。

最近の実況の経過及び予報の根拠については、[海洋の健康診断表](#)の週から月の海洋の変動または海域ごとの診断をご覧ください。

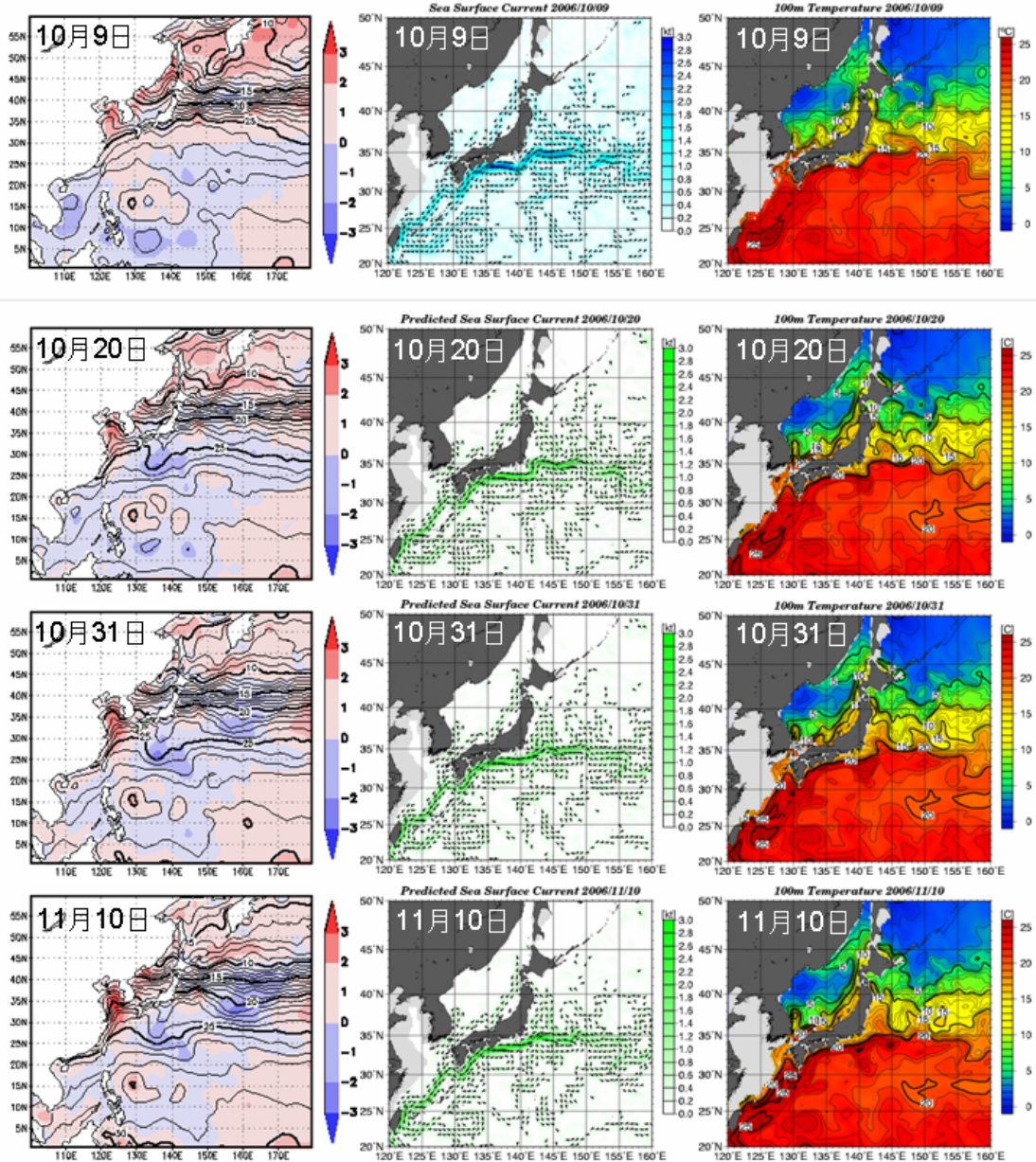
本予報に関するお問い合わせは 海洋気象情報室：03-3212-8341 内線5127 にお願います。

次回予報発表は10月20日16時です。

(予報文)

## 水温・海流分布図

10月11日から11月10日までの予報(各旬末日):海面水温(左列)、海流(中列)、深さ100mの水温(右列)

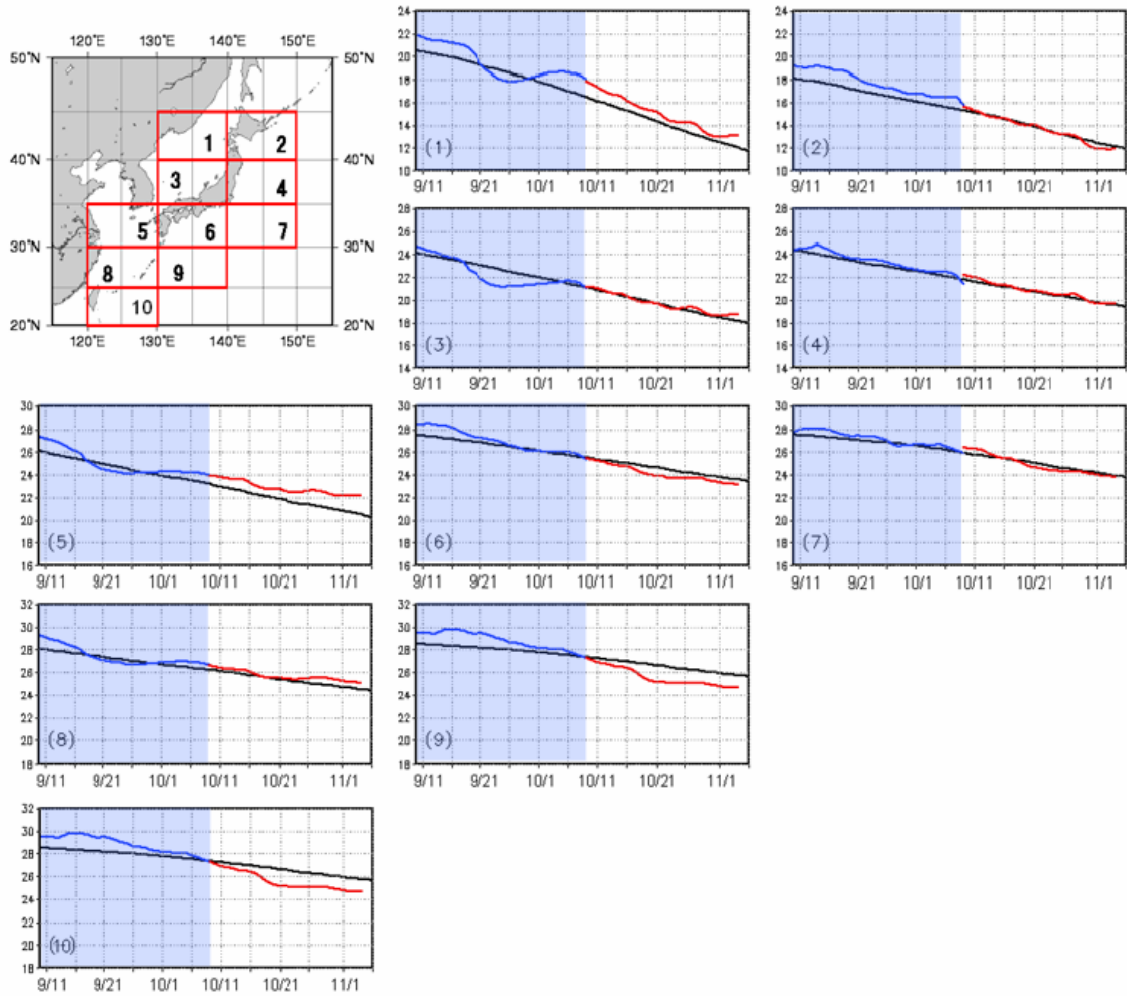


海面水温:1℃毎の等温線で水温を示しています。赤色は平年値より高い海域、青色は平年値より低い海域で、色が濃いほど平年差が大きいことを表します。  
 海流:矢印は海流の向きを表し、色が濃いほど海流が大きいことを表します。矢印のないところは海流が弱いところ  
 深さ100mの水温:水温を等値線と色で示しています。暖色系は水温が高く、寒色系は水温が低いことを表します。  
 1段目が最新の実況、2段目以降が予報を表します。

(10日ごとに予想される海面水温、海流の分布図)

## 海面水温時系列図

10月11日から11月10日まで予報: 領域平均海面水温の時間変化



青はこれまでの海面水温の経過、赤は予報される海面水温の変化、黒は平年値を表します。

(海域毎に予想される海面水温の時間変化)